

てがみ座 第11回公演

地を渡る舟

— 1945 / アチック・ミュージゼアムと記述者たち —

脚本 長田育恵
演出 扇田拓也

昭和20年春、本土決戦が叫ばれる街にひとりの男がいた。男は敗戦を正確に予期し各地の農家を訪ね歩いてきた。「その日」を迎えた暁に、ただちに日本を再建するために。

旅する民俗学者 宮本常一。

日本列島を隅々まで歩き人々の営みを記録し続けた。

常一を支援したのは戦時下の日銀総裁、渋沢敬三。

敬三は、自宅に民俗学研究所『屋根裏の博物館』を設立し

若き民俗学者たちと共に、この国を描き留めようと力を尽くした。

けれど真摯な情熱は

戦時下へ墜ちゆく中で、翻弄され飲み込まれていく……。

宮本常一、渋沢敬三。そして若き民俗学者たちの葛藤。

記憶されたものだけが記録にとどめられ

記録されたものこそが時を超える。

彼らが信じた未来、方舟の行方は。

「第58回岸田國土戯曲賞・第17回鶴屋南北戯曲賞ノミネート作品」



福田温子 (てがみ座) 今泉 舞 (てがみ座) 箱田暁史 (てがみ座) 俵本藤汰 (ラッパ屋) 清水 伸 (ふくふくや) 松本紀保 三津谷 亮 川面千晶 (ハイハイ) 近藤フク (ベネフルベネフル) 森 啓一朗 (東京タンパン) 伊東 潤 (東京乾電池) 中村シユン 西山水木

岸野健太 横山莉枝子 酒井和哉 峰崎亮介 谷 恭輔 須田彩花

本作の上演に再び向かい合うとき、2013年の初演時と作品の質感がまったく異なって感じられることに気づきました。この作品を構想したのは、震災直後、たとえ一瞬でも日本中の一人一人がこの国の未来を考えようとした、その体感が芯に残る、そんな時期でした。

だからこそ常一が愛したうつくしい日本を、私自身もともに見て書き継いでいきました。なにかを信じながら。

あれから2年。私たちはいま「新しい戦前」を生きてい

ます。常一が記録しつづけた日本を、私たちはたしかに手渡されたはずなのに、手のひらは温かさを覚えているのに、いつしかそれを壊し、喪おうとしています。私がいま立ち返りたい場所は、自分の足で日本の隅々まで歩き、ふれ合い、確かめた常一の学問です。2015年、この作品と新たな眼差しで向かい合い精一杯に演劇を創ること。そこから、次の一步を踏みだそうと思います。

てがみ座主宰 長田育恵

2015年10月23日(金) — 11月1日(日) 東京芸術劇場シアターイースト

料金 全席指定・税込

前売: 4,000円 当日: 4,200円 25歳以下: 3,000円

※U25はプリエール・東京芸術劇場ボックスオフィスにて取扱

チケット発売 9月9日(水)

チケット取扱 ※未就学児のご入場はご遠慮願います。

プリエール — 03-5942-9025 (平日11~18時) <http://priere.jp/>

東京芸術劇場ボックスオフィス — 0570-010-296 (休館日を除く10~19時)

<http://www.geigeki.jp/t/> (PC)

<http://www.geigeki.jp/i/t/> (携帯)

チケットぴあ — 0570-02-9999 (Pコード: 446-110) <http://t.pia.jp/>

ローソンチケット — 0570-084-003 (Lコード: 37492)

0570-000-407 (オペレーター対応) <http://l-tike.com/>

カンフェティ — 0120-240-540 (平日10~18時) <http://www.confetti-web.com>

お問合せ プリエール — 03-5942-9025 (平日11~18時) info@priere.jp



★ = アフタートークあり、詳細はHPをご覧ください。
受付開始・当日券販売は開演の60分前、開場は30分前です。

